



観光まちづくり

最前線

No.29

地域を歩くレポート

多彩な観光的魅力の宝石箱・府中 —多様な主体のチカラを結集する協働型の観光振興をめざして—

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

今回レポートする府中市は、地名からもわかるように武蔵国の国府が置かれたまちです。府中市観光のさらなる発展に向け「府中市観光振興プラン」が改訂され、観光プランを具体化するために観光フォーラムが開催されるとの情報を得たことから潜入調査してきました。

■ 観光的魅力が多すぎる贅沢な府中市観光

新宿から京王線特急で23分と都心と近い府中市を代表する観光資源は、まちの中心にある「大國魂神社」と関東三大奇祭の一つと言われる「くらやみ祭」であり、歴史・文化・お祭りといった伝統文化を守りつづけています。府中駅から大國魂神社につながる「馬場大門けやしき並木」は平安時代に植樹されたといわれており、まさに地域の宝です。現在では並木通りを活用して府中ストリートテラスなど新たな取り組みが展開されています。

ユーミンの中央フリーウェイの歌詞に出てくるビール工場(見学可)と東京競馬場、甲州街道の宿場町、ラグビータウン、身近で多彩な公園、ちはやふるの聖地など、かつての都庁機能があった府中には、伝えきれない新旧の魅力がたくさんありすぎて、観光のイメージがフォーカスされていないかもしれません。贅沢な悩みですね。

■ 持続可能な協働型の観光振興を進める改訂版の観光振興プランを策定

「府中市観光振興プラン」は、新型コロナウイルス感染症の拡大や旅行者の意識・行動の多様化などを踏まえて2020年から検討が開始され、2022年3月に新たなプランが策定されました。

7月7日開催の観光フォーラムでは、新プランの紹介の後、改訂に関わったメンバーによるパネルディスカッションが開催されました。前プランでは、指標・ターゲットが明確でないこと、観光資源を点ではなく面として捉えること、市民が誇れる観光の視点を活用することなどが課題となっていました。新プランでは、市民が誇れる観光・交流の磨き上げ、地域の活力向上、持続可能な協働による観光まちづくりの実現を目指して取組もうとしています。

これまでインバウンド向けとしてお寿司体験や着物体験などの外国人ツアーの実施や、地域活性化の担い手として市民や若者に活躍してもらえるような取組みなどを実施してきた実績をもとに、さらにその先に近隣自治体や大学、そして市民の方々などのサポーターの力が重なることで府中市観光を進めるチカラが結集されようとしています。

■ 府中市観光振興連絡会が進める子ども向けの観光かるたプロジェクトの展開に期待!!

近年、観光業界では若者を対象に人材の育成に力を入れています。「観光」に特化した授業を取り入れている学校もあるのです。府中市の観光振興プランも同様に、「人材育成」を目標に「市民が誇りを持てる町」や「若者目線の観光」という内容が取り上げられたとのことです。

そして目標実現に向けた取組みを先導するため、府中市では市内に住む子どもたちに「観光かるた」を作成してもらい、魅力の発見・発信するプロジェクトを始めようとしています。そこには取組みをきっかけに郷土意識の醸成と観光意識の向上につなげていこうという思いが感じられます。私たちもこのプログラムに参加して府中市観光の魅力向上・発信に少しでも貢献できればと思っています。

(加賀美結月・武田結希)

出典:「府中ストリートテラス」の写真は(一社)まちづくり府中より提供していただきました。



中心にある大國魂神社はまちの宝。歴史と伝統を感じる清浄の空間です。



ちはやふるのマンホール。アニメの聖地として若者を惹き付けています。



観光フォーラムのパネルディスカッション—くらやみ祭の衣装での出演……地域愛を感じました!!



府中駅から大國魂神社につながる「馬場大門けやしき並木」では府中ストリートテラスが開催され、賑わいが生まれています。